

日野市立教育センター所報

教育センターだより



第45号 令和元年11月1日発行

日野市立教育センター

○日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保 550 番地

代表電話 042-592-0505

FAX 042-592-1148

午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分

URL: <http://www.hino-tky.ed.jp/center/>

○わかば教室

〒191-0042

日野市程久保 550 番地

直通電話 042-592-0863

午前 8 時 30 分から午後 4 時

～現場の教育実践に役立てる教育センターに～

◎子供たちの主体性を育むため、さらに現場とつながり、 授業力の向上を支える教育センターをめざして

所長 正留 久巳

日野市では、第3次日野市学校教育基本構想を策定しました。「未来に向けた学びと育ちの基本構想」です。子供たち自らが育んでいってほしい力を「すべてのいのちが喜びあふれる未来をつくっていく力」とし、これを育む環境を学校、家庭、地域そして子供たちみんなでつくっていくというものです。その中で、学校は「一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方へ」「自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動へ」の実現に向けて、先見性を持ち、先駆的に進むことが求められているということです。そのためには、一人一人の子供の主体性を育てる指導法や教材の工夫のあり方が一層大切になります。本教育センターは、特に、「授業力の向上」と「現場に役立てる教育センター」を目標に取り組んでまいりました。今後とも、その視点を基とし、新たな学校教育基本構想の具現化のために、新しい日野の教育の創造に尽力してまいりたいと存じます。教育委員会の方針を受け、所員一同力を合わせて、平成31年度も以下の3事業を推進していきますので、よろしくお願いいたします。

(1) 調査研究部門では、本年度も、学校現場や関係機関等と連携しつつ、よりよい授業実践や教材開発ができるよう「理科教育」「郷土教育」の研究に継続して取り組みます。

理科教育推進研究では、自然や事物とのかかわりの中で自ら考えようとする「ひのっ子が主体となる理科授業」をめざし、その具体的な手立ての実践研究を進めます。魅力ある理科授業をめざし情報の共有化や日野の自然についての教材化を推進します。具体的には地層の学習教材「日野の大地のはなし」の作成とモデル授業を示し、また、チョウの卵の採取のためのキャベツの苗やめだかの卵の提供、実験のアイデアの紹介をしていきます。

郷土教育推進研究では、学校・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館・図書館などと連携し、ふるさと日野に誇りと愛情をもち、郷土の一員としての自覚と、積極的に社会に参画しようとする態度を身に付けた児童・生徒の育成を目指します。そのために、平成30年度に作成した「歩こう 調べよう ふるさと七生」を教材にした授業づくりに取り組み、児童・生徒が、自ら学習問題を発見し、解決方法を考えて実践し、仲間と話し合って学びを深め、分かったことや考えたことを表現する探究的学習活動を、実践的に追究します。

(2) 研修部門では、教育センターの専門スタッフの力を活かして、若手教員(1・2年次)について実際の授業に即した個別指導を行い、授業力向上の力添えをします。その際には「授業観察のためのガイドライン」に沿って学校と共通認識で指導にあたります。「教育は人なり」の視点を大切にし、指導・助言にあたります。また、教育委員会が実施する各種教員研修が円滑に実施できるように協力していきます。

(3) 相談部門は「楽校生活相談」と「わかば教室」の運営があります。前者では学校生活上の問題、長期間の欠席に関することなどで悩み・課題を抱える子どもたちの相談や支援、資料提供を行います。「わかば教室」では、長期間の欠席状況にある子どもたちの学ぶ場としてeラーニングを含め、子どもたちの実情に即して学習や進路等を一緒に考え支援していきます。また、登校支援コーディネーターが、学校及び「発達・教育支援センター」のスクールソーシャルワーカー(SSW)や関連機関と連携を図り登校支援を行います。

教育センターの事業内容については、webサイトでの紹介に加え「教育センターだより」、「教育センター紀要」、「郷土日野指導事例集」などの刊行物も発行していますので、ご一読いただければ幸いです。

I 調査研究部

調査研究部では、日野市の当面する教育課題である「理科教育推進の研究」「郷土教育推進の研究」を行っています。以下、年間計画のあらましをお知らせします。

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

ひのっ子が主体となる理科授業を目指して

日々の授業が「ひのっ子が主体となる理科授業」となるために、まず先生方を支えよう、理科の授業力向上のための支援をしようと考え、その具体的な手立てを実践研究しています。

（１）研究の手立て

① 教員・学校の理科授業への支援

- ・日野の自然の教材化：プレゼン資料「日野の大地のはなし」
プレゼン資料 C4th 掲示板にて公開
6年「土地のつくりと変化」の授業計画(日野市版)作成
⇒ 試行授業の実施へ



- ・教材の提供と貸し出し

キャベツの苗(幼1園、小16校、中1校)、メダカの卵(幼1園、小9校、中1校)

観察・実験資材の貸し出し

- ・理科室の整備・充実への助言
- ・理科観察実験アシスタント事業



メダカの卵



子メダカ



理科室でキャベツの育苗

全小学校で理科授業の準備、片付け等へのアシスタント配置

② 教員の理科実技研修への協力

- ・理科ワークショップへの支援：年間9回を予定
実施の周知、参加申し込みのとりまとめ
理科授業へのアイデアの提供
- ・理科関係研修会の計画・実施
理科実技研修会、富士電機研修会、多摩動物公園研修会



メダカの飼育体験

③ 諸機関と連携した理数授業特別プログラムの実施

- ・日本電子、東京工業高等専門学校、首都大学東京
専門性を生かした授業の実施
理科に関する児童・生徒の興味関心の醸成



電子顕微鏡に触れる

（２）組織・運営

- ・「理科教育推進研究委員会」を年間に3回開催し、上記研究に取り組む。
- ・小学校・中学校校長会代表者を委員長・副委員長とし、計18名の委員により構成する。

Ⅱ 研修部

1 若手教員育成研修

教職員研修係

(1) 1年次若手教員 (小学校 30名、中学校 19名 計 49名 5月1日現在)

年3回、1年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。指導の観点は、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導にあたります。1年目の教員として身に付けるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行っています。



(2) 2年次若手教員 (2年次 小 15名、中 16名 計 31名 5月1日現在)

年1回、2年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行います。2年次教員に対して担当所員は、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、改善策等を指導していきます。具体的には授業展開において、ねらいが明確であるか、重点となる部分に焦点を当てられているかなど、工夫のある授業実践を目指していけるように、また、興味・関心を高める教材開発と ICT 機器の効果的な活用を行えるよう指導を行っています。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、アドバイスをしていきます。

なお、3年次教員の授業観察については今年度より、学校課の指導主事が担当することとなりました。

(3) 夏季研修 (2年次及び3年次若手教員)

7月26日、2年次及び3年次の若手教員育成研修が半日単位で開催される予定です。2年次の研修(午前)ではグループに分かれ、各自が1学期に実践した指導事例を発表し、授業の展開方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等について協議を行い、授業改善につながる魅力ある授業作りを目指します。担当所員は、それぞれのグループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行います。

3年次の研修(午後)では、外部機関との連携についてと、保護者と協力しながら児童・生徒の指導にあたる適切な方策についての講義があり、その後、グループに分かれ、演習を行います。担当所員は、保護者と歩調を合わせた指導における留意点や配慮すべきことなどを助言します。

2 教育委員会主催研修会への協力

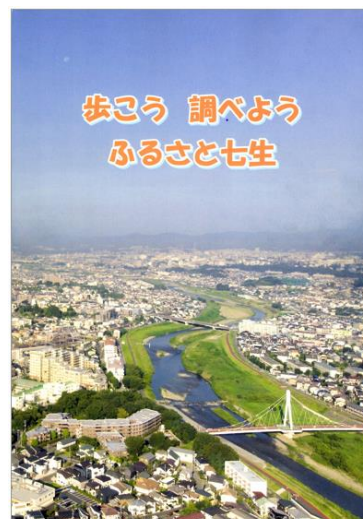
教育委員会が主催する研修会で、主に教育センターで行われる定例主任研修会や各種委員会、夏季休業中に煉瓦ホールで開催される夏季教員研修会全体研修会(幼・小・中学校の全教員対象)の受付等の準備を行います。

また、夏季休業中に実施される課題別研修会の郷土教育、人権教育、理科実技、がん教育に関する研修等の研修会においても支援業務を行います。

郷土への愛着をもち、地域と共に生きる児童の育成 ～『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用を通して～

ふるさと日野に誇りと愛情をもち、郷土の一員としての自覚と、積極的に社会に参画しようとする態度を身に付けた児童・生徒の育成を目指します。

そのために、『歩こう 調べよう ふるさと七生』を活用した効果的な指導方法を追究し、得られた情報を市内各校に向けて提供します。



（１）目指す児童・生徒像

- ・郷土に関する歴史上の人物、事物、出来事、伝統や文化、産業、人々の暮らし等を知り、ふるさとに対する愛着と感謝の心を高めている。
- ・主体的に問題発見や問題解決に取り組み、仲間と協働して探求的に活動をしている。
- ・学びを通じて、地域社会の一員としての自覚をもち、自らの生き方を考えている。

（２）研究の手立て

① 児童・生徒が主役の授業の研究・開発

- ・『歩こう 調べよう ふるさと七生』を教材にした授業づくりに取り組み、児童・生徒が自ら学習問題を発見し、解決方法を考えて実践し、仲間と話し合って学びを深め、分かったことや考えたことを表現するような探究的学習活動を、実践的に追究します。
- ・単元指導計画や学習指導過程及び学習の成果物など、授業実践によって得られた情報を収集し、市内の教員が共有できるようデータを電子書庫に保存します。

② ゲストティーチャーの派遣

- ・児童・生徒の学習を支援するために、学習に活用できる人材を発掘していきます。
- ・情報の提供や現場からの要請に応じてゲストティーチャーを派遣したりします。

③ 地域を教材化した授業づくりの支援

- ・フィールドワーク研修会を企画・実施して、教員が郷土に対する認識を深め、地域を教材にした授業づくりの手法を理解し、郷土教育の良さや楽しさを感じる機会にします。
- ・地域住民の話を記録したり、地域の歴史的な情報を収集したりして、学習に活用できるようにします。

(3) フィールドワーク研修会 ～市教委主催の夏季研修会と共催～

目的；『歩こう 調べよう ふるさと七生』を活用して、平山地域を歩くことを通して、自然や文化財に触れ、市内の文化財の教材化を考える。

日時；令和元年 7 月 24 日（水）9：00～16：30。

〔午前〕 見学場所；平山城址公園駅～滝合橋～鮫陵源跡～平山遺跡発掘調査現場～平山八幡神社～滝合小学校



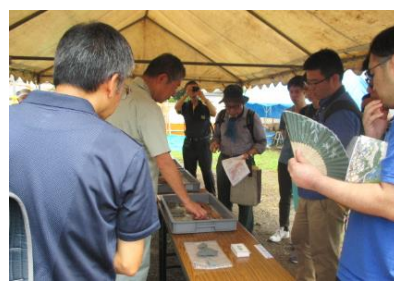
源平合戦一谷先陣争図・国芳筆



木造平山季重座像（宗印寺）



軍配団扇
（平山八幡神社）



平山遺跡から出土した遺物の説明を受ける

〔午後〕 講義・演習；「平山地域の教材化」等講義、「演習」、「講評」ほか。

(4) 『歩こう 調べよう ふるさと七生』の利活用

学校以外のあらゆる事業で利活用し、皆さんに利用・活用していただける『歩こう 調べよう ふるさと七生』を目指しています。

① 生涯学習 1 課 3 館合同企画；学びの場プロジェクト

「歩こう・調べよう・ふるさと七生～春夏秋冬・七生を学ぶ」

第 1 回目；ほどくぼ小僧「藤蔵」と「かくれ穴」を開催（6/15）。

～冊子を当日参加者へ配布し、雨にもかかわらず好評であった。

② 日野ニュースのコラム『日野人の風を感じて』に連載中。

「中央線開業 130 周年と日野煉瓦」～今後 2 か月に 1 回、3 万部を配布。

(5) 平山陸稲（おかぼ）とは？

平山の林丈太郎が発見した陸稲（オカボ）とは何か、水稻栽培の稲との違いは何かを確認する栽培体験を行っております。栽培方法は①水田状態、②湿った土の状態、③畑の状態と 3 種類に分け、生育状況を比較しそのデータを記録しています。



平山陸稲の種粒 紫色の長いノギが特徴



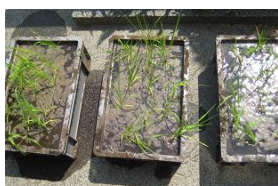
代かき 元肥 N8・P8・K8



6 月 6 日田植え 草丈 40 cm



7 月 2 日 草丈最長 85 cm



田植え直後 土中温度 31℃



6 月 11 日



6 月 26 日 草丈 60 cm

Ⅲ 相談部

【わかば教室】

学校生活相談係

教育センターの相談部は、学校生活相談係が「わかば教室」の運営と「学校生活相談（主に長期欠席の児童・生徒について）」を行っています。

1 学校生活相談

学校生活相談係は、児童・生徒の長期欠席〔主な内容：学校生活における悩み、人間関係でのストレス、登校しぶり、児童・生徒の心理的、又は環境をめぐる問題等〕に関しての相談や支援・助言を行います。「わかば教室」は、通室する児童・生徒が安定した心理状況で過ごせる居場所であり、学びの場であり、学校復帰を目指す場です。そのうえで好ましい人間関係や社会性や自立心の育成を目指します。具体的な活動は次の通りです。

- (1) 相談活動→学校生活上の問題や長期間の欠席に関する相談、「わかば教室」に通室している児童・生徒への計画的・継続的な個別面談を実施する。
- (2) 「わかば教室」通室児童・生徒への支援→安心して過ごせる学びの場(居場所)づくり、及び児童・生徒に応じた体験活動や学習活動の支援を通して、社会的自立や基礎学力の定着を図り学校復帰への支援を行なう。
- (3) 登校支援→学校訪問（年1回以上）、学校及び保護者との相談（随時）を実施する。
- (4) 学校・家庭・地域との連携→わかば教室連絡会、通室状況報告の送付、授業参観・保護者会、わかば通信の発行、地域ネットワーク連絡会、スクールカウンセラー連絡会、地域を生かした体験活動。

◇ 指導・支援スタッフ：教育センター所員2名、カウンセラー3名、指導員5名、登校支援員1名のスタッフで業務に当たっています。「わかば教室」の学習・行事・生活全般にわたって学生ボランティアの協力があります（30年度は約16名が一日平均1～2名）。

※ご相談は、電話 042-592-0863（時間 午前8時45分～午後3時00分）へお願いします。

2 児童・生徒への学習支援：eラーニング

(1) 「わかば教室」に通室している児童・生徒のための学習支援

わかば教室に通室している児童・生徒に対して、わかば教室の学習活動時間を利用し、児童・生徒の学習支援を図ります。

- ・学習時間：固定時間割 火：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生 木：学習タイム1→小学生 学習タイム2→中学生
- ・活動場所：教育センター2階パソコン室

※わかば教室見学者は、eラーニング学習時間（火曜日・木曜日）に体験学習することが可能です。事前に時間など登校支援員（eラーニング担当者）に確認してください。

(2) わかば教室に通室できない児童・生徒のための学習支援

さまざまな理由からわかば教室に通室できず、長期間欠席状況にある、又はそのような傾向にある児童・生徒に対しては、「eラーニング学習室〔教育センター3階〕」で学習できる機会を設定し、児童・生徒の学習支援や学校復帰への援助を図ります。

- ・学習時間：水曜日（わかば教室通室生下校時間後 ☆ 午後2時～4時）
- ・活動場所：わかば教室eラーニング学習室（教育センター3階）

※事前に調整が必要です。学校を通してわかば教室登校支援員（eラーニング担当）に確認してください。

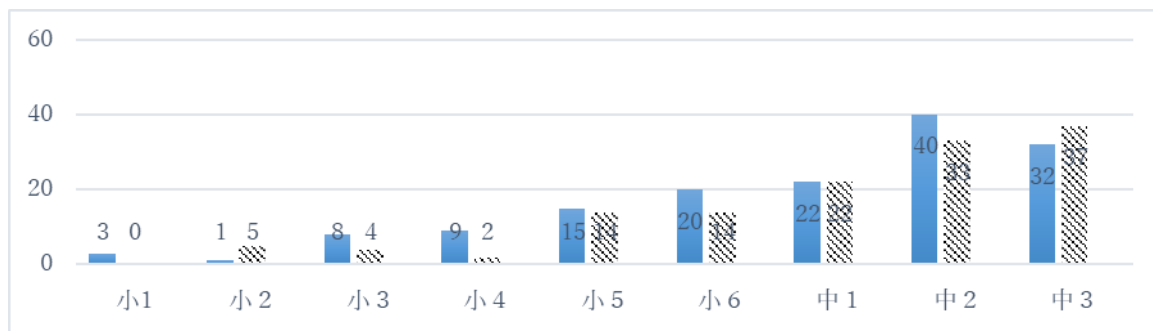
Ⅳ 登校支援コーディネーター

1 出席状況調査の活用について

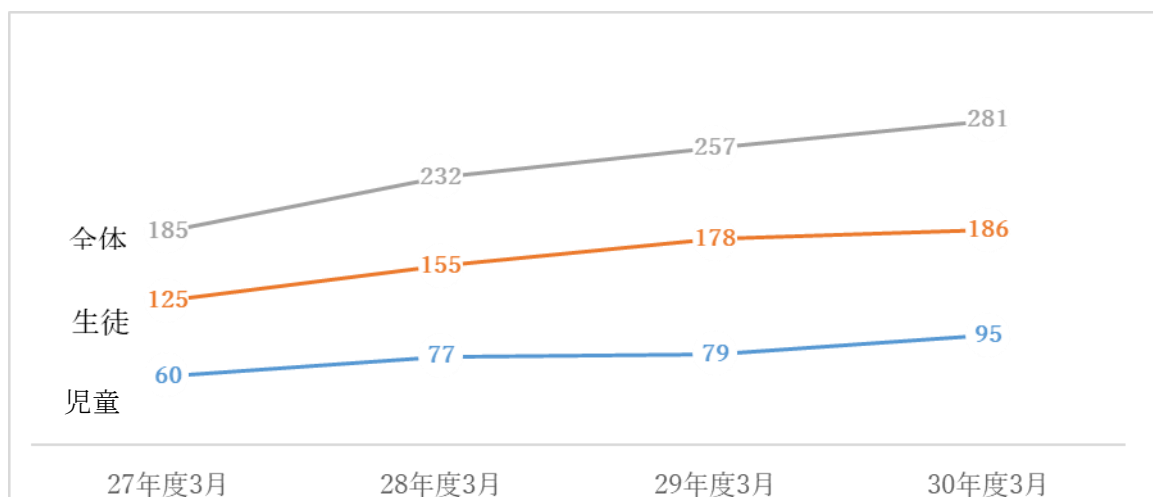
登校支援コーディネーターは、市内小中学校が作成した出席状況調査の集約結果を、定例の生活指導主任研修会をはじめ、わかば教室、日野市発達・教育支援センター（エール）等へ資料提供し、関係機関相互の連携・協力の資料として活用されるよう図っています。また、支援会議等でアセスメントシートとして使用することも活用方法の一つと考えています。

2 平成30年度の状況

（1）平成30年度30日以上欠席児童・生徒学年別出現状況



（2）平成27年度3月から平成30年度3月までの30日以上欠席者数の推移



（3）まとめ

- ① 全般的に見て男子の長期欠席者が多い。
- ② 学年進行に従って長期欠席児童・生徒数が高くなっていくのは、これまでと同じ傾向であるが、長期欠席の低学年化の兆しがあることへの注意が必要である。
- ③ 長期欠席児童・生徒の微増傾向が依然として続いている。
- ④ 出席状況調査記述欄から、発達障害に起因する長期欠席のケースの増加がうかがえる。
- ⑤ 長期欠席が続いているケースが多い中で、学校の取り組みや他機関との連携による取り組みによって、新年度新たな気持ちで通常の登校ができるようになった児童・生徒も多い。

3 今後に向けて

- ① 児童・生徒との関係を保ち続ける工夫、配慮
- ② 個々の児童・生徒の特性、養育環境に応じた対応
- ③ 校内リソースの組織的な活用と専門家、専門機関との連携